

学術研究基盤事業の年次計画

計画名称	研究データの活用・流通・管理を促進する次世代学術研究プラットフォーム						
実施主体	情報・システム研究機構 国立情報学研究所						
所要経費	853億円 ※このうち、研究データ基盤の高度化に係る経費の増額については、実施機関に対し、本事業予算に限らない多様な財源の確保及び経費の効率化を求める。また、ネットワーク基盤の増強についてはその必要性を慎重に検討する。	計画期間	2022年度～2027年度				
計画概要	実世界のあらゆる活動から取得したデータをサイバー空間で解析し、社会の効率化や変革に役立てる「データ駆動型研究」を促進するための次世代学術研究プラットフォームの整備と運用を実現する。						
研究目標 (研究テーマ)	1. 研究データ基盤の整備・運営 2. ネットワーク基盤の整備・運営						
年次計画	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	
1. 研究データ基盤の整備・運営 研究データの収集・管理・公開・利活用を飛躍的に容易にする研究データ基盤の運営をその規模を拡大しながら実施する。また、研究データ基盤の機能強化を行い、早いものは2025年度に試験運用/本運用を開始する。また、運用開始後も、利用者からのフィードバック等に基づき、機能の拡充を図る。	研究データ基盤の運営			試験運用/本運用			
	研究データ基盤の新機能開発/実証実験 (機能高度化グループ1)			試験運用/本運用			
2. ネットワーク基盤の整備・運営 全国的な400Gbpsネットワークの整備・運営、大型研究施設支援等のための接続点の拡大、超高速モバイル機能との融合、VPN等ネットワークサービスの高度化、クラウドサービスや認証基盤との連携、国際接続環境の強化等を実現する。また、トラフィック量の増加に合わせたネットワーク基盤の増強も実施する。	研究データ基盤の新機能開発/実証実験 (機能高度化グループ2)			試験運用/本運用			
				高度化機能の拡充			
ネットワーク基盤 (SINET6) の運営 (国内400Gbps、国際回線等の運営)							
<p>需要に応じてネットワーク基盤の増強を予定</p> <p>欧州回線増速</p> <p>国内800Gbpsの導入</p> <p>国際回線増速 (南米などを予定)</p> <p>次期ネットワーク基盤の構築・移行</p>							
計画推進に当たっての留意事項等	<p>○SINET6については、多くの研究コミュニティにとって既に必須の研究インフラとなっており、極めて高い基盤性が認められる。今後、学術研究基盤事業として長期的に実施していくことは適当であるが、予算要求が巨額なだけに、これまで同様の緊張感をもって計画を進めていくことが必要である。</p> <p>○特に研究データ基盤について、何をどこまで整備するのか、利用者の数ほどの程度見込まれ、かつどのような利用方法が見込まれるのか、基盤の利用により研究者が研究に割くことができる時間はどの程度増えるのか等を具体的に分析し、それらを総合的に検討して、費用対効果の最適化を行う必要がある。</p> <p>○研究者コミュニティの要望は極めて多様であり、かつ、年次的にも大きく変化していく可能性があるため、フレキシブルな計画とそれに対応できる体制が求められる。</p> <p>○安定的に基盤を支えることに貢献できる人材(や組織)との連携、及び研究コミュニティだけでなく産業界の協力を集約できる実施体制を育てていくことが重要である。</p> <p>○基盤の重要性は拡大の一途をたどるが、NIIという組織の規模も踏まえ、適正な事業範囲の確認と国際情勢の把握は、事業実施と並行して繰り返し行っていくことが望まれる。</p>						

※状況に応じ、計画期間中の適切な時期に作業部会による進捗確認を実施する。